

すこやか生活習慣

がんを防ごう～第10回がん検診の受診について～

今回は、がん検診の受診についてのお話です。

平成19年4月にがん対策基本法が施行され、1年が経ちました。あなたのはがん検診を受けましたか？

国は平成19年6月「がん対策推進基本計画」を策定し、がん検診の受診率を、平成24年度に50%とする目標を掲げました。これは、欧米諸国と比較して受診率が低く、がんの早期発見の重要性の観点からこの目標としたものです。市では年々検診を受けるかたの数は増えていますが、現在の受診率は国の目標値には遠く、半数以上のかたはがん検診を受けていません。(基本健康診査・人間ドック・職域健診などでの受診者は含みません。)

未受診の理由について国の調査によれば、「たまたま受けていない」(28.8%)、「健康状態に自信があり、必要性を感じないから」(17.3%)、「心配なときはいつでも医療機関を受診できるから」(16.9%)、「時間が無かったから」(15.9%)、「面倒だから」(15.4%)などの順になっています。

がん検診は、無症状のうちに検査を行い、がんを早期に発見して治療することを目的としています。がんは、本人や家族、身近なかたに与える影響が大きく、また、がんになってから治療にかかる時間や経費は、検診と比べたいへんな負担となります。

何らかの兆候がある場合は、市の検診を待たずに治療を受けることが第一ですし、今健康であるかたこそ、年に一度は自分自身のため、そして家族のためにがん検診を受けましょう。

*5月31日は世界禁煙デーです。愛煙家のかたには、たばこの値上げ、喫煙場所の制限など、たばこを吸うのに厳しい社会になってきています。6月1日には、たばこに関する講座を、かわぐち市民パートナーステーションで開催します。たばこについての情報や知識を得る良い機会です。ぜひご参加ください。

子育て支援

子育て支援センター事業

① **みんなであそぼう** 年齢に応じた楽しいあそびを親子で楽しみましょう。子育てに関する親子講習もあります。

対象…おむね1歳(歩行完了)～3歳の幼児と保護者

持ち物…上ばき・手ふき・着替え・ビニール袋*飲み物(ジュース不可)は各自でご用意ください。

	1歳児(15組)	2～3歳児(15組)	親子講習 1～3歳児(20組)	時間
南青木 保育所	18日(水) 身体測定/看護師の話 24日(火) 親子ふれあいあそび	19日(木) 親子ふれあいあそび 25日(水) 身体測定/看護師の話	5日(木) 腹話術	9:30 ～ 11:00
戸塚西 保育所	18日(水) バランスボール 24日(火) 身体測定/看護師の話	19日(木) 身体測定/看護師の話 25日(水) バランスボール	12日(木) 腹話術	

●参加申し込みは1ヵ月1回となります。

*申し込み・問い合わせ…子育て支援センター

南青木保育所 ☎251-7249 (受付時間 月～金曜日13:00～16:00)
戸塚西保育所 ☎298-4952 (受付開始 5月7日(水)から)

② **園庭開放**は5月22日(木)・23日(金)

6月2日(月)・11日(水)・26日(木)です。

申し込みなしの自由参加です。雨天の場合は中止となります。
10時までにお入りください。(受付は9:30～10:00です。)

③ **育児相談**

日時…毎週月～金曜日 13:00～16:00

場所…南青木保育所 ☎251-7261

戸塚西保育所 ☎295-0930

*川口駅前保育園地域子育て支援センター(川口1-1-1) ☎222-6011

*次の2カ所の私立保育園でも実施しています。

●川口こども園(安行領根岸1291) ☎286-0069

●キッズプラザアスク東川口保育園(戸塚4-21-1) ☎298-0083

詳細は、各保育園に問い合わせください。

健康 ガイド

Health Care Digest

健康アドバイス



「低温やけど(低温熱傷)」

川口市立医療センター
形成外科副部長

伊東 大

高温度による損傷はやけど(熱傷)として知られていますが、湯たんぼや電気カーペットなどの比較的低温度の長時間接触による損傷を、低温やけど(低温熱傷)と呼びます。

低温やけどは、60℃以下の温度の熱源によって引き起こされます。つまり、熱源温度約60℃以上による熱傷を通常のやけど、それ以下から体温以上によるものをいわゆる低温やけど、0℃以下の超低温温度によるものを凍傷といいます。

低温やけどは、急性期でも視診上、通常のやけどのような所見を呈することは少なく、見た目よりも重症であることが多いので注意を要します。小範囲でも難治性潰瘍へ移行することもしばしばあり、決して侮ってはならず、一定期間の保存的治療(軟膏治

療など)で治らない場合は植皮術などの手術が必要となることがあります。また、糖尿病や末梢循環不全症などを有するかたは、より広範囲かつ深達性の熱傷潰瘍になることが多く、その際外科的治療の適応が高くなります。

市販されているすべての温熱器具は低温やけどを生じる可能性があるため、これらの熱源に長時間、直接皮膚が触れたり圧迫が加わったりしないように注意することが大切です。例えば、湯たんぼの場合は、これをタオルで巻いて下着の上から当ててください。電気カーペットの上で寝る場合は、圧のかかりやすいおしりなどに柔らかい布団を敷いてください。

低温やけどが疑われたら、形成外科にご相談ください。